

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第11回西脇市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	令和4年8月29日（月） 午後1時30分～午後3時45分
開催場所	西脇市役所 大会議室 323・324
出席委員の氏名又は人数	9人
欠席委員の氏名又は人数	4人
出席職員の職・氏名又は人数	3人
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
議題又は協議事項	西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
会議の記録（概要）	
発言者 事務局	<p>1 開会</p> <p>○資料の確認</p> <p>2 まち・ひと・しごと創生会議の運営について</p> <p>○新任委員等紹介</p> <p>○会議成立報告 委員数13名中、本日の出席委員数9名により、本日の会議が成立する旨を報告</p> <p>○会長の選出 西脇市まち・ひと・しごと創生会議条例の規定に基づき、三宅委員を会長に選出</p> <p>○会長あいさつ</p>

	<p>3 西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p>○地方創生の背景・概要について 資料2に基づき、事務局から説明</p>
<p>会 長</p>	<p>事務局から説明があった。質問、御意見などをお願いしたい。</p> <p>資料22ページについて、北から南への人の流れがあることがわかる。私も、一つの市の中で、地区間の人の流れを調査し、マップを作成したことがある。この調査でも、上流から下流へと人の移動があった。丹波篠山市に対して転出超過ということか。</p>
<p>事務局</p>	<p>丹波篠山市などについては年によって転入超過、転出超過が変わる。東西の都市に対しては、人流自体が大きくない。</p>
<p>委 員</p>	<p>ファッション都市構想について、デザイナーを呼び込んで育成・定着を図り、ブランド育成を目指すということであったと思う。デザイナー育成として起業支援を行うとあるが、人材育成は次のフェーズに入ったということか。</p>
<p>事務局</p>	<p>次のフェーズに入らないといけない時期を迎えていると思うが、まだ途上といったところ。しかし、1名の方が小規模ながら起業されている。また、ブランド発信は、企業の中でもできる。市では、その後押しとして BEAMSとの連携を支援している。個人に対しては、商工会議所等と連携した起業セミナー等を行っている。引き続き支援をしていきたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>地場産業には「釣針」もある。コロナ禍のレジャーとして釣りが見直され、好調と聞いている。釣針産業の活性化に向けた取組はあるのか。</p> <p>播州織最終製品の縫製工場誘致は、地元雇用につながるのか気になる。地域に根差した産業はあり、教育の中でも地域産業の魅力などをPRされているが、大学進学を契機に地元を離れた人材が、都市でスキルをつけ、地元に戻ってくれるシステムづくりができないものか。</p>

事務局	<p>「播州釣針」は当市の重要な地場産業であり、コロナ禍のアウトドア人気から釣針産業は堅調であると聞いている。一方で、播州織については、コロナ禍で外出機会が減っており、ファッション業界全体の売上が大きく減少して厳しい状況となっている。</p> <p>釣針については、福祉分野への参入など多角化に取り組まれる企業もあり、このような新しい事業へのチャレンジについては補助制度も準備している。助成だけでなく、情報発信等でも協力できればと思う。</p> <p>縫製工場の雇用については現段階では不明であるが、西脇管内の有効求人倍率は、兵庫県全体によりも良い方だと把握している。製造業・サービス業での雇用はある一方で、学生が望む職種とのミスマッチがあるのではないかと思う。現在の学生は、専門性の高い分野への就職を希望する傾向があるとされており難しい問題ではあるが、委員からも発言があったように、郷土愛の醸成、地域の魅力を伝える取組は引き続き必要であると考えている。</p>
委員	<p>釣針の話と関連して、野村町のため池に「釣り禁止」の看板があるが、これは先程の話と逆行しているのではないか。気軽に釣りができるような場所があればよいと思う。</p>
事務局	<p>ため池の管理上の問題もあり、釣り禁止としている所もある。管理面、安全面等の観点から、おそらく地元で禁止されているのではないかと思う。</p>
会長	<p>ため池での事故については、管理者の責任が問われることが多くやむを得ない部分もあるが、もう少し柔軟な対応が検討されていけば、とも思う。</p>
委員	<p>丹波市からは転入超過ということであるが、例年、同じような傾向があるのか。</p>
事務局	<p>丹波市からは、継続的に流入がある。データとして根拠があるわけではないが、旧山南町からの流入が多いと思われる。行政圏は異なっているが、丹波市南部の住民と西脇市北部の住民は生活圏や病院を共有していることが要因と思う。こういった点にも留意しながら人口減少対策を考え</p>

	<p>ていく必要がある。</p> <p>また、西脇から丹波市以北の高校へ谷川線を利用して通学している学生がおり、逆に加古川線を利用して西脇工業高校へ通われる学生もある。こういうつながりも将来的な流入に繋がっているのではないかと思っている。</p>
<p>会 長</p>	<p>朝来市で人流の流れを調査したことがある。この時も上流から下流へと人の流れがあった。加西市でも北部からの移住事例を聞いた。Uターンはハードルが高く、Jターンの流れがあるのではないか。</p> <p>大学生の動きであるが、大学生の多くは就職先について明確なビジョンを持っているわけではない。また地元の産業のことを知らない。産業と絡めながら将来への道筋を見えるようにしてやれば、定住・雇用につながるのではないかと思った。</p>
<p>委 員</p>	<p>播州織と釣針では、雇用減少の理由が異なる。釣針については、産業全体の業績は好調であるが、海外への生産拠点の移転や製造方法の変化が要因で、雇用数は大きく変わっていないのではないか。織物については、量産品が海外の企業で生産されるようになったことが要因で、このため雇用は生まれず人口減少につながっている。播州織は西脇・多可では残っているが、近隣市では他の産業が育ち繊維産業が目立たなくなった。生産量についても昭和と比較して30分の1まで落ち込んだ。</p> <p>コロナ禍でアパレル業界も苦境で、大量生産していたところが、適正生産へシフトしてきている。企業もSDGsの観点から適正生産を意識している。10年後は今がピークだったという時代が到来していると思う。この状況下で、現在の生産数を維持できるかが、今後雇用の問題にも関わってくる。地場産業の現状についての報告である。</p>
<p>委 員</p>	<p>人口動態について、都市部への流出は予想できたが加東市にかなり流出している。この原因はなぜか。地理的には大きく変わらないと思うが。アンケートなどで要因を探ってはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>間接的な要因ではあると思うが、賃貸住宅の供給量の違い、また、市街化調整区域等の問題があると考えている。</p>

	<p>転出者に対するアンケート調査も以前に実施したが、結婚時に新しいアパートへの入居を希望される中で、新しいアパートが多いのが加東市であり、転出の一つの要因ではないかと考えている。西脇市へ帰ってくる方も多いが、加東市に残られる方も多く、流出超過となっている。</p> <p>一般的に、多可町～西脇市、加東市～小野市、加西市～姫路市など近隣自治体への移動が多い。</p>
<p>会 長</p>	<p>原因を究明することは大切なことである。これを参考に対策を講じてほしい。</p>
<p>委 員</p>	<p>農業振興について、2035年に日本では食糧不足の問題に直面すると聞いた。日本の食糧自給率はすごく低い。農家の稲作離れが多く、一部の人にしわ寄せがいつている状況である。耕作放棄されると農地に戻すことは難しい。今のうちに若者が農業に参入できるような環境づくりを構築し、将来到来する食糧難を回避しないといけない。</p> <p>たとえば、米から、パン、うどん等を作ることができれば、コメ余りは解消できるのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>新興国で人口が増加し経済成長していく中で、海外から食料を調達していくことは難しくなってくる。国内の中で食料を賄う視点は必要である。コメ余りの状況にある稲作は難しい部分があるが、例えば西脇市であれば、単位面積当たりの価格が高いイチゴ栽培を支援している。付加価値の高い農作物をつくっていくことが、将来にわたって農業を守っていく上で重要であると考えている。</p> <p>稲作は水田の多面的効果の観点からも守っていく意義があるが、農家の高齢化が進行しており、法人化などでの対応が必要ではないかと思う。また、西脇市は酒米の生産地であるが、コロナ禍で酒米の需要が低下している現状を踏まえて、耕作放棄が拡大しないよう、当面の措置として、酒米からうるち米、もち麦への転作支援も行っている。</p>
<p>会 長</p>	<p>市街化調整区域、土地面積等の問題もある。農業先進国のオランダは最先端の農業を行っている。気候変動の問題が顕在化しつつあり、土地の大きさの問題もある中で、施設系の農業にシフトするといった施策もあり得る。</p>

事務局	<p>農業を取り巻く環境は大きく変化しており、間もなく改定時期を迎える農業ビジョンへの反映も検討していく必要がある。</p> <p>○女性の定住促進について 資料2に基づき、事務局から説明</p>
委員	<p>グラフィックデザイン、広告関係の仕事をしている関係で、近隣で活躍される女性を含めた複数のライターと話をした。就職となると難しい部分もあるが、専門のライティングやデザインのスキルがあれば、都市圏に住まなくてもインターネットを活用して働くことができる。私自身もそうだが、Uターンした多可町の知人も仕事を続けているし、コロナ禍でモバイルでの働き方が定着した、と感じている。モバイルで働く方の環境づくりの支援・助成などにより、クリエイター系の人材を呼び込むといったことが考えられる。徳島県神山町などの成功事例がある。</p>
委員	<p>女性の大学進学が増えているという話であったが、昔と比べて離婚率が高まっており、しっかりとした仕事を持たないと生活できないということから、大学進学も重視されていると思う。大学を卒業し、就職先を選び、都市圏で出会った人と結婚すれば戻ってこない。このような理由から地方から出て行ってしまわないかと思う。</p> <p>私自身パートを複数おこなっているが、手取り収入は限られている。配偶者の収入だけでは生活が厳しく、女性も働かないと生活できないという家庭が多いのではないか。賃金的な面も、都会の方が良く、女性が出ていく理由ではないか。</p> <p>行政関連でいうと、高校3年生までの医療費無償拡大は大変ありがたいが、「西脇市は導入が遅い」との声がある。課題としては児童館の利用者数が少ないことが気になる。目標値に対して実績値が大きく下回っている理由はなにか。</p>
事務局	<p>以前は、もっと利用実績が高かったが、当初想定していなかったコロナの影響があった。</p>
会長	<p>仕事を複数行っている女性は多いのか。</p>

委員	<p>知人には結構多い。高齢で多数かけもちされている方もいる。扶養の関係で就労時間にも制約がある。賃金が低く経済的に厳しい方も多いと思う。</p>
事務局	<p>都会と比べると地方の賃金が低く、また特に地方では女性の賃金が低いということが課題になっている。大企業などでは女性の視点を経営に生かす流れがあり、政府としても女性の活躍を期待しているが、依然として大きな社会課題であると思う。地方自治体ができることは限られているが、事業者への働きかけ、啓発などが必要と考えている。</p>
会長	<p>女性の生の声を聴くのが重要と思う。いろんな知人の方の意見を聞き情報収集いただいて、この場で報告いただくとありがたい。</p> <p>神山町のように具体的な人物像を示した形での人材募集・誘致、地方での女性・若者の働き方をイメージ化した情報発信などが効果があると思う。</p>
委員	<p>中小企業の社長と話をする中で、企業は後継者問題、人材不足の声を聞く。対照的に、学生からは働く場所がないと聞く。西脇市には立派な会社がたくさんあるので、地元企業を冊子等でPRしてはどうか。</p> <p>会社の若い社員になぜ地元に戻ってきたのかということを知ると、親から帰ってこいと言われた、との答えがほとんどであった。そういった若い世代や親に地元企業をPRしてはどうかと思う。</p> <p>市長が小中学校で行う特別授業は、郷土愛や地域の魅力を伝える良い取組であると思う。親も含めて、育て方も重要である。</p>
委員	<p>結婚や出産のタイミングで職を離れるとして、現実的には女性の方が多い。子育てが落ち着いて職場復帰しようとしても制約があるのが現在の社会構造である。働きやすい職場環境、退職後のフォローアップ、女性管理職の割合など、若い女性には大企業の方が充実していると捉えられていると感じており、人口動態に影響していると思う。職を選択する際に、地方に職場環境が充実した企業があるかという厳しい面もある。</p>

委 員	<p>人材を呼び込むときに、役割、地域に必要な人材を明確化するのには良いと思う。多可町では地域おこし協力隊がおり、それぞれの個性をもって使命感を持って頑張っている。</p>
事務局	<p>地域おこし協力隊の良い点は、必要な人材を明示して、マッチングするところ。成果が上がっているとされる制度であるが、西脇市は財政支援の対象外。国に要望したこともあるが認められなかった。</p>
会 長	<p>定住の定義は不明瞭であるが、地域おこし協力隊の約70%が定住・定着に繋がっているという県のデータがある。兵庫県でも、国とは趣旨が異なるが、県版地域おこし協力隊制度を作っている。女性の方も専門性を活かして活躍をしている。</p>
事務局	<p>4 その他 資料4に基づき、西脇市の新型コロナウイルス感染症対策について事務局から説明</p> <p>コロナ禍で、行政が把握できていない、支援が行き届いていない方、また、アフターコロナに向けた効果的な取組などがあれば、後日でよいので連絡をいただければありがたい。</p> <p>5 閉会</p>
問合せ先	<p>西脇市市長公室（政策推進担当） TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014</p>